

要旨

2011年3月11日に発生した1000年に一度と言われた東日本大震災の地震と津波は、想像を絶するものであった。沿岸地区を襲った津波は、人の命を奪い家を破壊し、そこで暮らしていた人たちの生活の記録や思いでまでも、一瞬のうちに波に飲み込みこんでしまった。また、震災に付随して起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故とそれに伴う放射能汚染は、日本中を恐怖の渦に巻き込んだと言っても過言ではない。さらに放射能による環境汚染は、そこで生活していた住民の故郷も自宅も仕事をも強制的避難によって奪ってしまった。そのことは、東京電力福島第一原子力発電所の近くに住んでいた高校生ばかりではなく、近隣の市町村に住んでいる高校生の学校生活や家族との生活、友人や近所の人たちとの関係などにも大きな影響を与えた。

このような多重被災という現実には、高校生の心身の健康や生き方に影響をおよぼしたと考えられる。そこで、正確な実態を把握することが、その後の健康管理や相談のための指針として活用できると考え調査を行うこととした。なお、調査研究は2通りの調査により、実態把握を行った。

研究1は高校生の心身の健康に関して、時間的経過が及ぼす影響についての調査であり、個人の変化を追跡するため記名による自記式質問紙調査法で3回実施した。研究2は高校生が感じた震災の影響や復興の状況を、家族との関係や身近な地域の環境の変化、学校生活への影響などを通して把握する調査であり、無記名の自記式質問紙法で1回実施した。

なお調査対象者は、いわき市内にあるA高等学校に在籍する生徒全員とした。

研究1の結果、心身の健康に関しては震災1ヵ月の得点平均値が一番高かったが、3ヵ月後には得点平均値が減少した。しかし、1年3ヵ月後の結果では、「不安」因子の得点平均値が「警戒区域」と「自宅の被害有」の生徒は上昇しており、時間の経過が震災の影響を薄れさせるわけではないことを示唆していた。

研究2の高校生が体験した震災による影響や変化を、生徒自身の対応を通して明らかにすることについては、自然の脅威や命に対する考え方などに、前向きな変化が認められた。

また、家族の関係や周囲の環境の変化が、高校生の健康に影響を及ぼすことも一般化線型モデルの分析によりあきらかになった。

これらの結果から、心身ともに成長期にある高校生が受けた影響の実態の解明には、さらに継続した調査が必要であると考えられる。

Key words : health 、Iwaki city、multiple disaster、senior high-school student、
the Great East Japan Earthquake、

健康、いわき市、多重被災、高校生、東日本大震災